

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次 通年
授業科目名	人間学Ⅱ		担当教員名	就職キャリア支援センター ・ 明石 健一 ・ 学生支援課 (1~3回) (4~8,10回) (9回)	
授業形態	講義	授業時数	20	単位数	1
				選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	自分のキャリアデザインを実現するために必要な自己分析や企業研究等の方法、考え方等を講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。				
到達目標 (150文字程度)	自分の強みを発見し、発信することができる。 仕事の価値観をつかみキャリアデザインの実現に生かす。				
評価方法	定期試験		その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	課題レポート	取り組み姿勢	
			80%	20%	
教員実務経験	—				
学生へのメッセージ (150文字程度)	自分のキャリアデザインを実現するために自分と会社についてよく知り、自分にとって的確な会社選びができるよう積極的に取り組んでください。 また、自分の夢を実現させ幸せになるための具体的な行動を考え、実行する習慣が身に付いたかを振り返り、成長し続けてください。				
教科書	書名	人間学	書名		
	書名		書名		
参考書	書名		書名		
	書名		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について) ※実施時期は適宜設定		
回=90分	項目	内容
1※	キャリアデザイン	ガイダンス1
2※		ガイダンス2
3※		ガイダンス3
4		(1)就職活動を成功させるために (2)自己分析 (3)職種・業界研究 (4)履歴書・業界研究 (5)企業採用試験 (6)履歴書確認
5		
6		
7※	グループディスカッション	グループディスカッション
8※	講演会など	外部講師等による講演または学科教員による講義
9※	コンプライアンス	コンプライアンスについて
10※	奉仕活動	清掃活動など

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	前期
授業科目名	英検演習 II-1 (2級・準2級・3級)		担当教員名	吉田 美年子・浅井 尚美・セーン 尚子 (2級) (準2級) (3級)		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	英検合格に必要な英語力の定着のため、基礎的な文法や語彙の確認と過去問題で実践演習をする。					
到達目標 (150文字程度)	リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能の英語力をバランスよく定着し、各級合格を目指す。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	企業における海外勤務者への英語指導、通訳などの実務経験 企業における英語サイト、契約書類、技術書類の翻訳などの実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	就職活動、就職先で求められるビジネス英語力、知識を身につける授業に取り組んでください。					
教科書	書名	英検総合トレーニング		書名		
	書名	英検過去6回問題集		書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	英検総合トレーニング	文法①、筆記1①、リスニング問題
2		文法②、筆記1②、リスニング問題
3	英検過去問	
4	英検総合トレーニング	文法③、筆記1③、リスニング問題
5		文法④、筆記2①、リスニング問題
6	英検過去問	
7	英検総合トレーニング	文法⑤、筆記2②、リスニング問題
8		筆記3①、リスニング問題
9	英検過去問	
10	英検総合トレーニング	筆記3②、リスニング問題
11		筆記4①、リスニング問題
12	英検過去問	筆記4②、リスニング問題
13	英検総合トレーニング	筆記4③、リスニング問題
14		筆記4④、リスニング問題
15		ミニテスト

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)				開講時期	2年次	通年
授業科目名	航空技術英語		担当教員名	花田 正樹			
授業形態	講義	授業時数	60	単位数	4	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空整備士、航空技術者にとって必要な英文ベンダー・マニュアルの読解力を養うとともに、その構成基準を理解し、整備マニュアルを通じて航空機への知識を深め、航空機整備士に必要な技術英語の読解力向上を目指す。						
到達目標 (150文字程度)	技術基準の英文メンテナンスマニュアル構成、英文の表現と航空機システムについて習得しマニュアル読解力を上げる。						
評価方法	定期試験		その他の評価方法				
	筆記試験	レポート					
	100%						
教員実務経験	定期航空運送事業会社での航空機整備実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	1.航空用語・単語の辞書作りを行なうとともに、英文マニュアル触れ、何度も読み込み技術英語に慣れましょう。 2.マニュアル読解の課題を与え、それを個人やチームで発表する形式を取り入れます。 3.英和辞典必携						
教科書	書名	新 これから学ぶ航空機整備英語マニュアル			書名		
	書名				書名		
参考書	書名				書名		
	書名				書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1章 この本の構成	1-1 英文法について
2		1-2 AMM IPCについて
3	2章 略語について	
4	3章 英文マニュアルを読むための英文法	3-1 まずは次の整備マニュアルを読んでみよう
5		3-2 文法用語を振り返ろう
6		3-3 品詞についてもうすこし補足します
7		3-4 英文の成り立ちを理解しよう
8		3-5 英文マニュアルでよく使われる主要構文
9		3-6 文意の拡張のルールについて理解しよう
10		3-7 数値表現を理解しよう
11	4章 AMMの読み方	4-1 はじめに
12		4-2 手順書
13		4-2-1 BRAKEの点検手順
14		4-2-2 ENGINE OIL QUANTITYの手順書
15		4-3 不具合
16		4-3-1 CO-PI 側のDUがBLINKING DISPLAY UNITの交換
17		4-3-2 NO4 BRAKEのWEAR BRAKE UNITの交換
18	4-3-3 L ENGのOIL LEVELが若干LOW	
19	5章 IPCの読み方	5-1 IPCとは (Illustrated Parats Catalog : 部品リスト)
20		5-2 正しい部品を選択するために
21		5-3 基本的なIPCの読み方
22		5-4 IPC NOMENCLATURE欄の頻出表現
23	6章 その他	6-1 MEL (Minimum Equipment List: 運用許容基準)
24		6-2 CDL (Cofiguration Devication List: パネル等の構造部品欠落の許容基準)
25		6-3 航空日誌の書き方
26		6-4 SQUAWK CARDの書き方 (航空機の不具合処理記録)
27		6-5 SB (Service Bulletin)
28		6-6 AD (Airworthiness Directive: 耐空性改善命令)
29		6-7 予備品証明相当外国書式
30	7章 付録	7-1 線や図形の表し方 7-2 図形の表し方 7-3 位置の表し方 7-4 方位の表し方

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機・タービン専攻)			開講時期	2年次	前期
授業科目名	航空法規等Ⅱ		担当教員名	清水 岳志		
授業形態	講義	授業時数	28	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空従事者として、知っておかなければならない航空に関する「国際条約、国内法及び人間の能力の限界に関する一般知識」について習得する。					
到達目標 (150文字程度)	整備士資格取得に必要な基礎知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	なし			
	100%					
教員実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空法規等Ⅰに基づき、学科試験合格のための授業を行うので、復習を欠かさないください。					
教科書	書名	航空法規(整備士用抜粋)		書名	ヒューマンファクターの基礎	
	書名	航空機の基本技術		書名	航空法規等(整備士用)演習問題集	
参考書	書名	航空6法		書名	サーキュラー	
	書名	耐空性審査要領		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1~14	レビュー	1. 国内法全般のレビュー 2. 人間の能力と限界に関する一般知識全般のレビュー

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	後期
授業科目名	法規関連		担当教員名	清水 岳志		
授業形態	講義	授業時数	46	単位数	3	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空法及び航空法関連法の実務的運用の知識を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な基礎知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験 100%	レポート				
教員実務経験	航空機運航会社において航空機整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	1年次で学んだ航空法の知識をベースにして運用の仕方を学ぶため、学科試験合格後も内容をまとめて理解しててください。					
教科書	書名	航空機の基本技術		書名		
	書名	法規関連 サブテキスト		書名		
参考書	書名	航空機検査業務 サーキュラー集		書名		
	書名	航空法規集		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 航空法	1.航空関連法規2.航空法3.航空法の基本的理念4.航空法の内容
2		5.航空法体系6.国土交通省告示及びサーキュラー7.製造者のマニュアル
3	2. 航空機の整備作業 に関する法規	1.電波法2.高圧ガス保安法3.航空機製造事業法
4	3. 航空機の登録	1.航空機の登録2.航空機登録原簿への記載事項3.国籍及び登録記号の打刻
5		4.識別板の取り付け5.国籍及び登録記号の表示
6	4. 耐空証明	1.耐空証明
7		2.耐空証明検査3.耐空検査員
8		4.耐空証明検査時に必要な書類及び手続き要領
9		
10		5.耐空証明の有効期間6.運用限界等指定書
11		7.飛行規程の記載事項
12		8.整備改造命令、耐空証明の効力の停止
13		9.耐空性改善通報
14		10.試験飛行等の許可11.輸出耐空証明書
15		まとめ
16	5. 型式証明6. 追加型式証明	1.型式証明1.追加型式設計の承認2.同等追加型式設計の承認
17	7. 修理改造検査	1.修理改造検査2.修理又は改造について
18		3.修理改造検査の対象範囲4.検査
19	8. 装備品の取り扱い	1.航空機の登録に装備できる装備品等
20		2.装備品等基準適合証3.装備品等基準適合証を受けたとみなす装備品
21		4.装備品等基準適合証の失効5.装備品再使用の注意、装備品等の貸借
22		6.型式承認及び仕様承認7.適合証明書
23		まとめ

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	前期
授業科目名	航空力学Ⅱ		担当教員名	鈴木 淳		
授業形態	講義	授業時数	24	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)として必要な流体力学の基礎、航空機の飛行原理および空力特性等の航空力学の基礎知識を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な基礎知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	なし			
	100%					
教員実務経験	定期運送航空会社に於いて航空機整備の実務経験。					
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機が空を飛ぶ大本の専門知識であり、飛ぶために種々の構造機能は航空機特有の部分があることを踏まえ航空力学の知識を自分のものにしてください。					
教科書	書名	航空工学講座 1 航空力学		書名		
	書名			書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 重量及び搭載	1. 重量及び重心位置
2		2. 航空機の重量(1)重量の定義(2)重量の区分
3		3. 航空機の重心(1)重心位置の移動許容限界(2)重心位置の表示(3)重心位置の算出
4		復習・小テスト
5	まとめ	進捗度確認(2時数)No1(高速航空力学含む)
6	2. 飛行機の航空力学	1. 航空力学の基礎2. 翼と翼型
7		3. 揚力と抗力4. 安定性
8		5. 舵面と操縦性6. 性能
9		7. 高速空気力学8. 重量及び搭載
10	3. レビュー	1. 航空力学全般のレビュー(1)
11		2. 航空力学全般のレビュー(2)
12		3. 航空力学全般のレビュー(3)

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	前期
授業科目名	機体 II		担当教員名	花田 正樹		
授業形態	講義	授業時数	38	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の航空従事者(学科)国家試験の合格を目標とし航空機材料・航空機構造・航空機システムで学んだ基礎事項の確実な理解と応用を講義により行う。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の航空従事者(学科)国家試験の合格					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	定期航空会社にて航空機整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の航空従事者(学科)国家試験の合格を目標とし航空機材料・航空機構造・航空機システムで学んだ基礎事項の復習と理解を深めて下さい。					
教科書	書名	航空工学講座2 飛行機構造	書名	航空工学講座4 航空機材料		
	書名	航空工学講座3 航空機システム	書名	航空機の基本技術		
参考書	書名		書名			
	書名		書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 飛行機に加わる荷重	1. 水平直線飛行時の荷重 2. 荷重倍数 3. 水平尾翼と補助翼の荷重
2		4. 地上荷重 5. エンジンによる荷重 6. 安全率
3	2. 飛行機の機体構造	1. 基本構造の種類 2. 胴体
4		3. 窓、ドア及び座席 4. 主翼
5		5. 尾翼 6. 動翼
6	3. 着陸系統	1. 着陸装置の種類 2. 脚引込装置
7		3. 前輪式及び尾輪式 4. 主脚
8	4. 操縦系統	1. 人力操縦装置 2. 動力操縦装置
9		3. 主操縦系統
10		4. 補助操縦系統
11		1. 機械材料学要項
12	5. 機械工学要項	2. 航空機材料 3. 材料力学
13		4. 機構学要項
14		5. 非破壊検査
15	6. 燃料系統	1. 燃料系統の機能と構成
16	7. 油圧系統	1. 油圧回路及び系統部品
17	8. その他の系統	1. ニューマチック系統 2. エアコンデショニング系統
18		3. 防除氷系統 4. 防火系統 5. 酸素系統
19		6. 給・排水系統 7. 補助動力装置

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	前期	
授業科目名	発動機Ⅱ		担当教員名	林 勇輝			
授業形態	講義	授業時数	40	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	「発動機Ⅰ」で習得した基礎知識をベースとして、講義と問題演習を通して二等航空整備士(飛行機)として必要なタービン・エンジンおよびプロペラの構造、機能、作動および運転等について学ぶ。						
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な知識を習得する。						
評価方法	定期試験		その他の評価方法				
	筆記試験	レポート	なし				
	100%						
教員実務経験	定期航空運送事業会社におけるタービン発動機整備の実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機整備に関わる専門知識であり、新しく知り得た知識は必ず復習をして自分のものにしてください。						
教科書	書名	航空工学講座7 タービン・エンジン		書名			
	書名	航空工学講座6 プロペラ		書名			
参考書	書名			書名			
	書名			書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)			
回=90分	項目	内容	
1	1. 航空エンジンの概念	1. 航空エンジンの具備条件	
	2. 航空エンジンの分類と特徴	1. 航空エンジンの分類 2. 各種形式の特徴	
	3. タービン・エンジンの概要	1. 推進の原理	
2	3. タービン・エンジンの概要	2. タービンエンジンの分類と特徴 3. 最新の民間航空エンジンの発達の推移	
	4. タービン・エンジンの熱力学と空気力学	1. 熱力学	
3	4. タービン・エンジンの熱力学と空気力学	2. 空気力学 3. 単位	
	4 5 6	5. タービン・エンジンの出力	1. 推力と軸出力 2. 推力・軸出力設定のパラメータ3. 出力に影響を及ぼす外的要因 4. タービン・エンジンの効率 5. タービン・エンジンの一般特性 5. タービン・エンジンの一般特性 6. エンジンのステーション表示 7. 減格離陸推力 8. 推力増強法 9. エンジン使用時間とエンジン・サイクル
7 8 9 10		6. タービン・エンジンの基本構成要素	1. 基本構造一般 1. 基本構造一般 1. 基本構造一般 2. エア・インレット 3. ファンおよびコンプレッサ 3. ファンおよびコンプレッサ 4. 燃焼室 5. タービン 6. 排気系統 6. 排気系統 7. アクセサリ・ドライブ又はアクセサリ・ギア・ボックス
		7. タービン用燃料およびエンジン・オイル	1. ジェット燃料一般 2. タービン・エンジン・オイル一般
	7. タービン用燃料およびエンジン・オイル	2. タービン・エンジン・オイル一般	
11 12 13	8. タービン・エンジンの各種系統	1. エンジン燃料系統 1. エンジン燃料系統 2. 点火系統 3. エンジン空気系統 4. エンジン制御系統 4. エンジン制御系統 5. エンジン指示系統 6. エンジン・オイル・システム 7. エンジン始動系統	
		9. タービン・エンジン材料	1. タービン・エンジン材料一般 2. 代表的タービン・エンジン材料の概要 3. タービン・エンジン材料の特異現象 4. 部品製造および修理加工技術
15	10. エンジンの試運転	1. 一般 2. エンジン静止状態の機能点検 3. 始動 4. アイドル運転時の点検 5. 離陸出力点検 6. エンジン停止 7. 異常状態発生時の操作 8. エンジン性能試験	
16	11. エンジンの状態監視手法	1. フライト・データ・モニタリング 2. ボア・スコープ点検 3. マグネチック・チップ・デテクタ 4. エンジン・オイルの分光分析検査 5. エンジン整備方式 6. ETOPS	
	12. 環境対策	1. 騒音 2. 排出規制	
17	13. プロペラ	1. プロペラの基礎	
18		2. プロペラに働く力と振動	
19		3. プロペラの種類 4. プロペラ制御装置	
20		5. 実用プロペラ 6. プロペラの付属品および指示系統 7. プロペラの整備	

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	前期
授業科目名	電子装備品等Ⅱ		担当教員名	武藤 康彦		
授業形態	講義	授業時数	50	単位数	3	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	1年次の復習と二等航空整備士(飛行機)として必要な基礎知識の確立と学科試験に必要な知識の習得を目的に教育を実施する。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な基礎知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	航空機輸入販売会社において航空機用無線機器整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	1年次の復習が基本となるので理解できなかった部分を質問し、理解するようにしてください。					
教科書	書名	航空工学講座8 航空計器		書名	航空工学講座10 航空電子・電気装備	
	書名	航空工学講座9 航空電子・電機の基礎		書名		
参考書	書名	電子装備品等ⅠA サブテキスト		書名		
	書名	電子装備品等ⅠB サブテキスト		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 航空計器	1. 計器一般2. 空盒計器
2		2. 空盒計器
3		3. ジャイロ計器
4		4. 圧力計器5. 温度計器
5		6. 磁気計器
6		7. 集合計器8. 統合電子計器
7		2. 航空電子装備
8	3. 航法システム(1)ADF(2)VOR(3)DME	
9	(4)ILS(5)ATCトランスポンダ	
10	(6)気象レーダー(7)電波高度計(8)TCAS	
11	4. 記録装置 5. 警報システム 6. ELT	
12	7. 自動操縦装置	
13	7. 自動操縦装置	
14	3. 航空電気	1. 電気・電子の基礎(1)静電気
15		(2)電圧、電流、抵抗
16		(2)電圧、電流、抵抗
17		(2)電圧、電流、抵抗(3)磁気
18		(4)交流回路
19		(5)電子部品・回路
20		2. 航空電気装備(1)電気配線(2)電気部品
21		(3)バッテリー
22		(3)バッテリー
23		(4)発電機
24		(5)電動機
25		(6)電源系統(7)電気系統コントロール

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	通年
授業科目名	基本実習 II		担当教員名	明石 健一・基本実習グループ		
授業形態	実習	授業時数	150	単位数	3	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	1年次で学んだ、航空整備に関する基本技術の知識・技能について深度を高め、3年次に2等航空整備士を取得すべく、レベルアップを行う。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な基礎知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験 100%	レポート	なし			
教員実務経験	航空運送事業において航空機整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	実習中は、安全に対する配慮や一つひとつの作業を確実にやり、また、工具類の整理・整頓を心掛けてください。 目的意識を持って受講し、また、常に疑問を持ち、考える習慣をつけてください。 自分の意見を持ち、説明できる力を養ってください。					
教科書	書名	航空機の基本技術	書名			
	書名		書名			
参考書	書名	航空機の基本技術トレーニング・ガイドVI	書名			
	書名	航空機整備作業の基準(AC43.13-1B/2A)	書名			
授業計画 (各回ごとの項目と内容について)						
回=90分	項目	内容				
1	1. 作図知識	1. 作図一般				
2						
3	2. 成形法	1. 曲げ作業における注意事項				
4		2. アンクル製作				
5		(1)展開長の計算 (2)ケガキ (3)切断及び板曲げ (4)検査				
7	まとめ	進捗度確認 No1				
8 ~ 17	3. リベット	1. ソリッド・シャンク・リベットの除去作業 2. リベッティング及びリムーブ作業				
18	まとめ	進捗度確認 No2				
19	4. 構造修理	1. 準拠すべき技術基準 2. 航空機構造の負荷分類 3. 損傷部の処置の仕方				
20		4. 構造修理の基本原則 5. リベットの選定要素				
21		6. 修理に必要なリベット数の求め方7. リベット配置				
22		8. その他の注意事項				
23						
24		9. オーバー(八角)パッチの修理				
25 ~ 34		10. オーバー(八角)パッチの作成 (1)ケガキ&ポンチング (2)ニューマチック・ドリルによる穴あけ (3)端面仕上げ (4)防食処理 (5)リベッティング及び検査				
35		11. フラッシュ・パッチの修理法				
36	12. スプライス修理法					
37	まとめ	進捗度確認 No3				
38	まとめ	進捗度確認 No4				
39	5. ホース・チューブ	1. チューブ製作手順				
40		2. 中圧ホースの組立て				
41 ~ 44		3. チューブ・アセンブリの製作				
45	まとめ	進捗度確認 No5				

回=90分	項目	内容
46	6. 電気工作	1. 航空機用電線
47		2. 航空機の電気配線方法
48		3. 接地とボンディング
49 ~ 51	6. 電気工作	4. 電線作業 (1)ワイヤ・ストリッピング (2)はんだ付け (3)銅ターミナル及び銅線の接合方法 (4)スプライスのクリンピング・AMPスプライスのクリンピング (5)コネクタールハンド・クリンピング・ツールによるコンタクトのクリンピング
52		6. 電気配線作業(1)ワイヤ・ストリッピング(2)AMPターミナル・スプライス作業(3)電線の支持及び結束(4)はんだ付け(5)コネクタールの組立て
53		
54	まとめ	進捗度確認 No6
55	7. 非破壊検査	1. 浸透探傷検査 2. 磁粉探傷検査 3. 超音波探傷検査 4. 渦流探傷検査 5. 放射線透過検査
56		6. 非破壊検査作業
57		
58 ~ 61	8. 総合	1. 機械計測 (1)ダイヤル・ゲージ (2)シリンダ・ゲージ (3)シリンダ測定
62 ~ 73		2. 総合実技 (1)機械計測 (2)電気計測 (3)ケーブル作業 (4)締結作業 (5)リベット作業
74	まとめ	進捗度確認 No7
75	まとめ	進捗度確認 No8

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	通年
授業科目名	機体実習 I		担当教員名	風岡 輝徳・林 勇輝 飛行機グループ		
授業形態	実習	授業時数	248	単位数	6	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	ビーチクラフト式A36型機の各系統の分解、検査、組立及び故障探求要領について学ぶ。一部のシステムについてはセスナ式310型機を用いて理解を深める。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な航空機取扱いの知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	なし			
	100%					
教員実務経験	エアラインにおける航空機整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	機体実習の基本は原理・原則である。1年次の復讐をした上で授業にのぞみ、受講中は何事にも疑問をもつよう心がけてください。					
教科書	書名	A36トレーニングガイド		書名	航空工学講座2 飛行機構造	
	書名	航空工学講座1 航空力学		書名	航空工学講座3 航空機システム	
参考書	書名	ビーチクラフト・メンテナンス・マニュアル		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 機体構造	1. 機体構造の概要 (1)概要 (2)一次・二次構造及び非構造
2		(3)胴体及びドア構造 (4)ウィンド及びウィンド・シールド (5)非常脱出口
3		(6)主翼構造
4		
5		(7)尾部構造 (8)機体の材質
6		3. 翼の取外し、取付け方法 (1)主翼
7		3. 翼の取外し、取付け方法(2)尾翼
8		
9		2. (1)ドアの開閉及びロック機構(2)窓及び非常脱出口の点検・サービスの機能及び作動
10		
11		3. 翼の取外し、取付け方法(3)主翼取付け部のリトルク(4)ドアの作動点検及び取外し、取付け
12		(5)故障探求
13	2. 客室系統	1. 操縦室、客室の概要及び構成
14		2. 主要部品の取付け位置
15		3. 主要部品の交換及び整備・検査 (1)シート、シート・ベルトの取外し、取付け (2)非常用装備品の整備・検査
16		
17	まとめ	進捗度確認(2時数) No1
18	3. 空気調和系統	1. 空気調和系統の概要、装備目的及び構成
19		2. 主要部品の取付け位置(1)シュラウド・ヒーティング・システム(2)ベンチレーティング・システム
20 ~ 22		3. シュラウド・ヒーティング・システムの(1)概要(2)主要部品の機能及び系統の作動と操作
23 ~ 25		4. コンバッション・ヒーティング・システムの(1)概要(2)主要部品の機能及び系統の作動と操作
26 ~ 28		5. ベンチレーティング・システム (1)概要 (2)主要部品の機能及び系統の作動と操作
29 ~ 31		6. 与圧制御システム (1)概要 (2)主要部品の機能及び系統の作動と操作
32		(4)故障探求
33	まとめ	進捗度確認(2時数) No2

回=90分	項目	内容	
34	4. 操縦系統	1. (1)プライマリおよび(2)セカンダリ・フライト・コントロールの概要と目的(3)主要部品の取付位置	
35		2. (1)コントロール・コラムの機能及び作動	
36		(2)エルロン・システムの機能及び作動	
37		(2)エルロン・システムの機能及び作動 (3)エルロン・トリム・システムの機能及び作動	
38		(4)ラダー・システムの機能及び作動	
39		(5)エレベータ・システムの機能及び作動	
40		(6)エレベータ・トリム・システムの機能及び作動	
41		(7)フラップ・システム a. フラップ・システム b. 指示系統の機能及び作動	
42			
43		(8)固定タブ (9)ストール・ワーニング・システムの機能及び作動	
44		3. (1)コントロール・コラムの交換及び整備・検査要領	
45		(2)エルロン・システムの交換及び整備・検査要領	
46		(3)エルロン・トリム・システムの交換及び整備・検査要領	
47		(4)ラダー・システムの交換及び整備・検査要領	
48		(5)エレベータ・システムの交換及び整備・検査要領	
49		(6)エレベータ・トリム・システムの交換及び整備・検査要領	
50		(7)フラップ・システムの交換及び整備・検査要領	
51 ~ 60		4. (1)エルロン(2)ラダー(3)エレベータ(4)フラップの交換 (5)フライト・コントロールの作動試験	
61		まとめ	進捗度確認(2時数) No3
62		5. 燃料系統	1. 燃料系統の概要、目的及び構成
63	2. 主要部品の取付け位置		
64	3. (1)フューエル・フィード・システムの機能及び作動		
65	(2)フューエル・リターン・システムの機能及び作動		
66	(3)フューエル・ベント・システムの機能及び作動		
67	(4)フューエル・クオンティティ・インディケーション・システムの機能及び作動		
68			
69	(5)フューエル・クロス・フィード・システムの機能及び作動		
70			
71	4. 主要部品の交換及び整備・検査方法5. 燃料タンクの修理要領		
72	まとめ	進捗度確認(2時数) No4	
73	6. 防除氷系統	1. (1)翼防除氷システムの概要、目的及び構成	
74		(2)プロペラ防除氷システムの概要、目的及び構成	
75		(3)ストール・ワーニング・センサ防除氷システム(4)ピトー防除氷システムの概要、目的及び構成	
76		(5)インレット・ヒーター・システムの概要、目的及び構成 (6)主要部品の取付け位置	
77		2. (1)翼防除氷システムの構成、機能及び作動	
78		(2)プロペラ防除氷システムの構成、機能及び作動	
79		3. 主要部品の交換、整備・検査及び作動試験	
80		4. 故障探求	
81		まとめ	進捗度確認(2時数) No5
82		7. 着陸装置系統	1. (1)前脚、主脚、脚扉 (2)リトラクション・システムの概要、目的及び構成
83	(3)ホイール及びタイヤ(4)ブレーキ・システム(5)ステアリング・システムの概要、目的及び構成		
84	(6)指示系統及びウォーニング・システムの概要、目的及び構成		
85	(7)主要部品の取付け位置の概要、目的及び構成		
86	2. (1)前脚、主脚(2)リトラクション・システム a. 動力源とリンク機構 b. 電気回路の機能及び作動		
87	(2)リトラクション・システム a. 動力源とリンク機構 b. 電気回路の機能及び作動		
88	(2)リトラクション・システム c. 非常脚下げ機構の機能及び作動		
89	(3)ホイール及びタイヤ (4)ブレーキ・システムの機能及び作動		
90	(5)ステアリング・システム (6)シミール・ダンパの機能及び作動		
91	(7)指示系統及びウォーニング・システムの機能及び作動		
92 ~ 95	7. 着陸装置系統	3. 主要部品の交換及び整備・検査要領	
96 ~ 111		4. (1)前脚、主脚、脚扉の取外し、取付け作業(7)シミール・ダンパの取外し、取付けの実技作業	
112	まとめ	進捗度確認(2時数) No6	
113	8. 油圧系統	1. 主要部品の構成、機能及び作動 (Hyd Power Supply)	
114			
115	9. 酸素系統	1. 酸素系統 (1)概要、目的 (2)構成、機能及び作動	
116		(3)主要部品の取付け位置	
117		2. 酸素系統主要部品の機能及び系統の作動と操作	
118		3. 主要部品の整備・検査方法 (1)必要酸素量の決定 (2)整備と作業安全 (3)サービシング	
119		(4)酸素系統のサービシングのデモンストレーション	

回=90分	項目	内容
120	まとめ	進捗度確認(2時数) No7
121	10. レビュー (No1)	1. 機体実習全般レビュー
122	10. レビュー (No2)	1. 機体実習全般レビュー
123	10. レビュー (No3)	1. 機体実習全般レビュー
124	10. レビュー (No4)	1. 機体実習全般レビュー

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	通年
授業科目名	発動機実習 I		担当教員名	植村 荘太・飛行機グループ		
授業形態	実習	授業時数	188	単位数	4	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)に必要な知識、技能を習得するため、アリソン250-B17F2エンジンを主体に構造、機能、構成システムについて学ぶ。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な航空機取扱いの知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	なし			
教員実務経験	100%					
学生へのメッセージ (150文字程度)	安全作業に心がけてください。1年次の教育を、実機にて確認してください。作業品質向上のためのマナーを守ってください。					
教科書	書名	A36トレーニングガイド		書名	航空工学講座7 タービン・エンジン	
	書名	航空工学講座6 プロペラ		書名		
参考書	書名	ロールスロイス・マニュアル		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. タービン発動機主要諸元	1. ターボプロップ・エンジンの概要
2		2. ターボプロップ・エンジンの技術用語
3		3. ターボプロップ・エンジンの基礎 4. ターボプロップ・エンジンの概要
4		5. ターボプロップ・エンジンの主要諸元
5		6. ターボプロップ・エンジンの構成
6		
7		7. 略語 8. エンジン各セクションの材質
8		9. アクセサリの概要 10. 空気の流れと燃焼
9		
10	2. コンプレッサ・アセンブリ	1. コンプレッサの概要 2. (1)フロントサポート・アセンブリの主要部品の構成、構造及び機能
11		2. (2)コンプレッサ・ロータ・アセンブリの主要部品の構成、構造及び機能
12		2. (3)コンプレッサ・ケース・アセンブリの主要部品の構成、構造及び機能
13	3. コンパッション・アセンブリ	2. (4)コンプレッサ・ディフューザ(5)ベアリングの支持(6)ラビリンス・シールの構造及び機能
14		1. コンパッション・アセンブリの概要 2. (1)デイスチャージ・エア・チューブの構造及び機能
15		2. コンプレッサ・デイスチャージ・エア・チューブ、アウターケース、ライナー
16	まとめ	3. 空気の流れの概要
17	4. タービン・アセンブリ	進捗度確認(2時数) No1
18		1. タービン・アセンブリの概要
19		2. ガスプロデューサ・タービン・アセンブリ
20		(1)ガスプロデューサ・タービン・アセンブリの目的、構成、装備位置を説明する。
21		(2)構成品の目的、構成、装備位置を説明する。
22		3. パワー・タービン・アセンブリ
23		(1)パワー・タービン・アセンブリの目的、構成、装備位置を説明する。
24		(2)構成品の目的、構成、装備位置を説明する。
25		4. エキゾースト・コレクタ・サポート (1)エキゾースト・コレクタ・サポートの目的、構成、装備位置を説明する。(2)No.5ベアリングの目的、構成、装備位置を説明する。
26		

回=90分	項目	内容
27	5. ギアボックス・アセンブリ	1. ギアボックスの概要
28 ~ 30		2. ガスプロデューサ・タービン・ギア・トレーンの主要部品の構成、構造及び機能
31	5. ギアボックス・アセンブリ	3. パワー・タービン・ギア・トレーンの主要部品の構成、構造及び機能
32		
33	6. リダクション・ギヤボックス・アセンブリ	1. リダクション・ギヤボックスの概要
34	まとめ	進捗度確認(2時数) No2
35	7. プロペラ	1. リバース・ピッチ・プロペラ (1) 装備目的、名称及び型式 (2) 構造の概要
36		1. リバース・ピッチ・プロペラ (3)a. プロペラの主要部品の構成、機能及び作動
37		
38		1. リバース・ピッチ・プロペラ (3)b. ガバナの主要部品の構成、機能及び作動
39		
40		
41		1. リバース・ピッチ・プロペラ (3)c. コントロールの主要部品の構成、機能及び作動
42		
43		
44		
45	2. シンクロシステムの概要と作動	
46		
47	まとめ	進捗度確認(2時数) No3
48	8. インジケーション・システム	1. N1タコメーターの概要と作動 2. NPタコメーターの概要と作動
49		3. オイル圧力計 4. オイル温度計の概要と作動
50		5. TOT計の概要と作動
51		6. トルク計の概要と作動
52	9. 燃料系統	1. フューエル・システムの概要 2. (1)フューエル・ポンプ・アセンブリの構成、構造及び機能
53		2. (2)フューエル・ノズル・アセンブリの主要部品の構成、構造及び機能
54	まとめ	進捗度確認(2時数) No4
55	10. 燃料コントロール	1. フューエル・コントロールの概要
56		2. (1)GPFCの主要部品の構成、構造及び機能
57		
58		
59		2. (2)プロペラ・パワー・タービン・ガバナの主要部品の構成、構造及び機能
60		
61		2. (3)オーバースピード部の主要部品の構成、構造及び機能
62		
63		2. (4)フューエル・コントロールの主要部品の構成、構造及び機能、作動
64		
65		
66	2. (5)ガバナの主要部品の構成、構造及び機能、関係	
67		
68	まとめ	進捗度確認(2時数) No5
69	11. 点火系統	1. イグニッション・システムの概要 2. 主要部品の構成、構造及び機能
70	12. エンジン・コントロール	1. エンジン・コントロールの概要 2. 主要部品の構成、構造及び機能
71		2. (1)GPFCコントロール(2)プロペラ・パワー・タービン・ガバナ・コントロールの、構造及び機能
72		2. (3)コーディネーターの主要部品の構成、構造及び機能
73	13. 潤滑系統	1. エンジン・オイル・システムの概要
74		2. (1)エンジン・オイル・タンクの主要部品の構成、構造及び機能
75		2. (2)エンジン・オイル・クーラ主要部品の構成、構造及び機能
76		2. (3)オイル・スカベンジ・フィルタの主要部品の構成、構造及び機能
77		2. (4)オイル・ポンプの主要部品の構成、構造及び機能
78		2. (5)オイル・フィルタ主要部品の構成、構造及び機能
79		
80		2. (6)各システム構成品の目的、構成、作動、装備位置
81		
82	まとめ	進捗度確認(2時数) No6

83	14. パワープラント	1. パワープラントの概要 (1)限界使用時間とサイクル管理について目的、各部件の限界について
84		2. 排気系統について 3. 始動系統について
85	15. 防除氷系統	1. 防除氷系統の概要 2. 主要部件の取付け位置
86		1. コンプレッサ・フロントサポートの防除氷の仕組み
87	まとめ	進捗度確認(2時数) No7
回=90分	項目	内容
88	16. 空気圧系統	1. 空気圧系統の概要 2. 主要部件の取付け位置 3. (1)コンプレッサ・ブリード・システムの主要部件の構成、構造及び機能
89		4. タービンの冷却とバランス・エア、ラビリンス・シール
90	まとめ	進捗度確認(2時数) No8
91	レビュー(No1)	1. タービンエンジン全般レビュー 技能審査に合格するために2年次の学習内容について復習を行う。
92	レビュー(No2)	
93	レビュー(No3)	
94	レビュー(No4)	

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	通年
授業科目名	装備品実習 I		担当教員名	重信 志郎・飛行機グループ		
授業形態	実習	授業時数	160	単位数	4	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	ビーチクラフト式A36型機及びセスナ式310型機の各電気・電子装備の主要部品の構成、機能及び作動等について学ぶ。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な航空機取扱いの知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	なし			
教員実務経験	100%					
学生へのメッセージ (150文字程度)	1年次の復習をした上で授業にのぞみ、受講中は何事にも疑問をもつよう心がけること。					
教科書	書名	A36トレーニングガイド		書名	航空工学講座9 航空電子・電気の基礎	
	書名	航空工学講座8 航空計器		書名	航空工学講座10 航空電子・電気装備	
参考書	書名	ビーチクラフト・メンテナンス・マニュアル		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	1. 自動操縦系統	1. 自動操縦装置系統の概要、目的及び主要部品の構成
2		1. 自動操縦装置系統の概要、目的及び主要部品の構成 2. 主要部品の取付位置
3		3. (1)フライト・ディレクタ (2)オート・パイロット
4		(1)フライト・ディレクタ (2)オート・パイロットの機能及び作動
5		(2)オート・パイロットの機能及び作動 (3)指示系統及びウォーニング・システムの機能及び作動
6		(3)指示系統及びウォーニング・システムの機能及び作動
7	2. 通信系統	1. (1)VHF通信システム (2)機内通信システムの概要、目的及び主要部品の構成
8		2. 通信系統の主要部品の取付け位置
9		3. (1)VHF通信システム (2)機内通信システムの機能及び作動
10	まとめ	進捗度確認(2時数) No1
11	3. 電源系統	1. 電源系統の概要、目的及び主要部品の構成
12		1. 電源系統の概要、目的及び主要部品の構成 2. 電源の優先順位
13		3. 電源系統の主要部品の取付け位置
14		4. 電源系統の主要部品の機能及び作動 (1)DC電源回路の概要と作動
15		(2)主要部品 a. バッテリ b. バッテリ・スイッチの概要と作動
16		c. バッテリ・リレー d. バス・バーの該当と作動
17		e. スタータ・ジェネレータ f. ボルテージ・レギュレータの概要と作動
18		g. サーキット・ブレーカー h. リバース・カレント・リレーの概要と作動
19		i. ボルト・メータ j. ロード・メータの概要と作動
20		k. オーバー・ボルテージ・システム l. ロー・ボルテージ・システムの概要と作動
21		m. 外部電源の概要と作動
22		(3)AC電源系統の概要と作動
23		5. 並列電源系統の概要、目的及び主要部品の構成 (1)回路図の見方
24		6. 電源系統の主要部品の検査及び交換 (1)バッテリーの点検整備の実技作業
25	(3)電圧調整要領の概要	
26~29		
30		

回=90分	項目	内容
31～33	3. 電源系統	(3) 発電機の電圧調整の実技作業
34		(4) 電源系統に関わる故障探求
35		
36	まとめ	進捗度確認(2時数) No2
37	4. 計器系統	1. (1) 計器板 (2) 飛行計器、航法計器などの概要、目的及び主要部品の構成
38		(3) グレア・シールドの概要、目的及び主要部品の構成
39		(4) 計器系統の主要部品の取付け位置
40		2. (1) ビトー・スタティック系統の主要部品の機能及び作動
41		(2) a. 高度計 b. 速度計 c. 昇降計の主要部品の機能及び作動
42		(2)d. ビトー・チューブ e. スタティック及びエマージェンシ・スタティック・ポートのの機能及び作動
43		(3) ビトー・スタティック系統の主要部品の取付け位置
44		3. (1) プレッシュヤ系統の主要部品の機能及び作動
45		(2) a. 定針儀 b. 水平儀 c. ターン・コーディネータの概要、目的及び主要部品
46		d. プレッシュヤ・ポンプ e. プレッシュヤ・レギュレータ f. フィルタの概要、目的及び主要部品
47		(3) プレッシュヤ系統の主要部品の取付け位置
48		4. その他計器 (1) 磁気コンパス (2) リモート・コンパス概要、目的及び主要部品
49		(3) 外気温度計、時計 (4) コーシジョン・アンド・アナンシエータ・パネルの概要、目的
50		5. (1) ビトー・スタティック系統の主要部品の検査及び交換、クリーニングの実技作業
51		5. (2) ビトー・スタティック系統リーク・テストの実技作業
52～55		(2) プレッシュヤ系統の圧力調整の実技作業
56		(4) 計器系統に関わる故障探求
57	5. 照明系統	1. (1) 外部照明 (2) 内部照明の概要、目的及び主要部品の構成
58		2. 照明系統の主要部品の取付け位置
59		3. 照明系統の機能及び作動
60		4. 主要部品の検査及び交換の実技作業
61	まとめ	進捗度確認(2時数) No3
62	6. 航法系統	1. (1) RMI (2) HSIの概要、目的及び主要部品の構成
63		(3) DME (4) ATCトランスポンダの概要、目的及び主要部品の構成
64		(5) ILS等の概要、目的及び主要部品の構成
65		(6) ELT (7) アンテナの概要、目的及び主要部品の構成
66		2. 航法系統の主要部品の取付け位置
67		3. (1) RMI (2) HSIの機能、作動及び操作
68		(3) DME (4) ATCトランスポンダの機能、作動及び操作
69		(5) ILS等の機能、作動及び操作
70		(6) ELTの機能、作動及び操作
71		4. (1) 航法装置作動試験の実技作業
72		
73		
74		
75		
76	まとめ	進捗度確認(2時数) No4
77	7. レビュー No1	1. 装備品実習全般レビュー 技能審査に合格するために2年次の学習内容について復習を行う。
78	7. レビュー No2	
79	7. レビュー No3	
80	7. レビュー No4	

2024 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空整備科 二等航空整備士コース(飛行機タービン専攻)			開講時期	2年次	通年
授業科目名	航空機の取扱い I		担当教員名	平田 和裕 ・ 飛行機グループ		
授業形態	実習	授業時数	138	単位数	3	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	ビーチクラフト式A36型機の地上取扱い方法、日常点検、試運転、法定検査及び航空機の安全管理、航空機整備管理要領について学ぶ。					
到達目標 (150文字程度)	二等航空整備士(飛行機)の資格取得に必要な航空機取扱いの知識を習得する。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験 100%	レポート	なし			
教員実務経験	エアラインにおける航空機整備の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機の取扱い安全の心得を守ること。各実習を通してその内容について理解した上で授業にのぞみ、努めて何事にも疑問を持つように心がけてください。					
教科書	書名	A36トレーニングガイド		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	航空機検査業務サーキュラー集		書名	航空機の基本技術	
	書名	航空整備作業の基準		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1 ~ 3	1. 取扱い	1. 全長、全幅、全高、上反角等(2)ステーション・ナンバーの基準点及び表示方法 a. ボディー・ステーション b. ウイング・ステーション c. ウォーター・ライン d. パトック・ライン e. センター・ラインの概要と位置
4		2. ジャッキ・アップの(1)ジャッキ・ポイントの位置、(2)ジャッキの容量、(3)作業要領
5		
6		
7		(4)ジャッキ・アップ作業の実技作業
8		3. (1)レベリング・ポイントの位置 (2)レベリング作業要領
9		
10		(3)レベリング作業の実技作業
11		4. (1)トーイングの方法(2)注意事項
12		
13		(3)トーイング作業の実技作業
14		5. 駐機 (1)駐機の作業要領
15		
16		(2)駐機作業の実技作業
17		6. (1)給油 (2)エンジン・オイル、作動油 (3)滑油、グリースのサービシング要領
18		
19 ~ 24		(4)その他のサービス要領
		(5)機体へのサービシングの実技作業
25	まとめ	進捗度確認(2時数) No1
26	2. 業務範囲	1. 技能証明に限定される航空機の等級に関する事項
27		2. 系列型機に関する事項 3. 航空機検査業務に関する事項
28	3. 整備の方法	1. Airworthiness Limitationの(1)目的 (2)記載事項 2. 整備方式 (1)AMMに定める整備方式
29		2. 整備方式における(1)AMMに定める整備方式(2)社内規定(3)エンジンの整備方式 3. 整備の段階(1)運航整備
30		(2)定期整備に関する事項(3)特別点検 4. 運用許容基準の(1)条件、措置及び(2)出発の決定
31	まとめ	進捗度確認(2時数) No2

回=90分	項目	内容
32	4. 飛行規程	1. 飛行規程(1)飛行規程の整備に関する事項
33 ~ 35		(1)飛行規程の整備に関する事項(2)整備に関する限界事項の内容(6)飛行に必要な燃料及び滑油
36		(7)エンジンの性能の確認方法
37 ~ 39		重量重心における(3)規定される重量の種類(4)重量分布限界(5)重量・重心位置の算出方法
40		(7)性能の確認方法
41		2. (1)追加飛行規程の整備に関する事項
42	まとめ	進捗度確認(2時数) No3
43	5. 点検作業	1. 日常点検(1)点検の整備上の分類、目的及び作業
44 ~ 46		(1)点検の整備上の分類、目的及び作業のデモンストレーション
47 ~ 56		(2)日常点検の準備及び作業について実技作業
57		(3)異常箇所発見時の処理要領(4)点検終了時の処置
58	まとめ	進捗度確認(2時数) No4
59	6. レビュー No1	1. 航空機の取扱い全般レビュー 技能審査に合格するために2年次の学習内容について復習を行う。
60	6. レビュー No2	
61	6. レビュー No3	
62 ~ 65	飛行前点検	飛行前点検(1回目)
66 ~ 69		飛行前点検(2回目)